

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 4月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678000177
法人名	特定非営利活動法人 環境福祉サービス
事業所名	グループホーム ヴィラおたつめたつ
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町納官5173番地 (電話) 0997-24-8557
自己評価作成日	平成28年1月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームヴィラおたつめたつは、屋久島や東シナ海を望める高台にあり、広々とした敷地に高い天井と天窗が印象的である。「ここでは、利用者一人一人が主役」「目配り・気配り・心配りの出来る支援」「積極的な地域との交流」「家族とのふれ合いを大切に」「おおきんなーの言える毎日」を理念に掲げ生活支援に努力している。小学校の運動会や入学式に参加したり、集落の行事見学や福祉祭りの出演など地元の皆さんとの積極的な交流に取り組んでいる。又、ドライブ・季節の花見・家庭的な食事を楽しみながら生活している。平成15年事業開始から、12年が過ぎ地域に根付いた活動が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<日々の暮らしについて>

高台にある事業所からは海と空が一望でき、日向ぼっこをするのにちょうどよい芝生の庭にベンチが設置され、利用者や職員、家族や来訪者等が気持ちよく談話することができる。また、日々の暮らしについても利用者一人ひとりがのんびりと過ごせるよう無理のない日課とし、寄り添うことで感じた思いを大切に、日々のケアや利用者の望む暮らしの実現につなげている。

屋内ばかりではストレスにつながるため、歩行が難しい利用者も車椅子やリフト車を利用して出かけるなど、月に一度は全員で外出するよう配慮している。

<地域に根差した取り組み>

毎年盛大に開催される事業所主催の「福祉祭り」では、毎年多くの地域の方々に参加、協力をもらうことで、15年間続けており、地域行事の一つとしてしっかり定着している。また、運営推進会議では、グループホームというものを地域に広く知ってもらうにはどうしたらよいかという意見が出されたため、配布用のチラシを作成したり、災害時には担架が必要ではないかという意見に対しては、担架を速やかに購入するなど、出された意見を大切にし、関係者間で検討、迅速に対応している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時に「職場の理念」を職員全員で「職場の教養」を利用者・職員で唱和している。今日の目標を読み上げ倫理の意識付けをしながら、日々の業務につなげている。	契約書に理念を記載し、契約時に本人及び家族に説明するとともに、フロアに掲示して毎日朝礼時に読み合わせることで意識付けを図っている。また、内容をより具体的なものにしてはどうかと理念の見直しを管理者間で協議しており、今後は職員とともに新しい理念作成に向けて話し合っていく予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間を通じて地域との行事の参加計画を立て、集落の敬老会への参加、福祉祭りへの出演、小学校の入学式・運動会等に積極的に取り組んでいる。	民生委員や地元の職員から地域行事の情報を得て、敬老会や小学校の行事に参加するほか、事業所主催のクリスマス会に女性消防隊員らが慰問にいられたり、少林寺拳法、地域の協力者で構成するお助け隊との交流など積極的に地域交流を図っている。また、毎年法人主催の福祉祭りを大きな会場で開催しており、利用者のステージ発表もあり、利用者家族、地域の方々も多数来場され盛大に行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症の人への理解をしてもらうよう努力している。地域との交流を通じて支援の方法も理解をしてもらうよう努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を2か月に1回開催し利用者の状況や行事などを家族の代表・運営推進委員に報告し意見交換を行っている。意見やアドバイスをもらい運営に活かしている。	会議には家族代表や民生委員、消防分団長、行政職員、駐在所から参加が得られ、事業所の取り組みや利用者の近況報告等を行っている。メンバーからのグループホームの特性を広く知ってもらうにはどうすればよいか、という意見に対しチラシを作成したり、災害時に担架が必要ではないかという意見に、担架を購入するなど意見やアドバイスを一つひとつ検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町の担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。運営推進委員会や町の研修に参加する事で行政とも連絡を取り合い指導・協力・支援を頂いている。	行政職員とは、運営推進会議や認定申請時に「中種子町ケアマネ協議会」等で顔を合わせるほか、研修の案内を受けて参加するなど意見交換する機会は多い。また、地域包括支援センターの職員とも運営推進会議や研修等で顔を合わせており、利用者の暮らしぶりや事業所の現状、相談事に出向き助言を頂くなど、日頃より連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ベッド柵やミトンが必要な利用者の方にはサービス計画に入れて家族の同意をもらっている。身体拘束委員会で見直ししながら支援していくようにしている。	年3回「施設内人権侵害防止に関するチェックリスト」により職員から意見を求め集計し、法人内で構成する「身体拘束対策委員会」で対策を検討している。日頃より言葉による行動制限についても気を配って対応しているところである。ミトンの使用など、どうしても行動制限が必要な場合は「身体拘束に関する確認及び承諾書」にて説明し同意を得るとともに、介護計画にも記載して関係者間で情報共有し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	系列の事業所と一緒に勉強会を行いそれを持ち帰りミーティング等で研修を行っている。（アンケート実施）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	系列の事業所と一緒に勉強会を行いそれを持ち帰りミーティング等で研修を行っている。現在のところ必要とされる利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居・変更時に契約書や重要事項説明書を読み合わせしながら確認作業をしている。利用者や家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会・家族会に家族の方に参加してもらったり、来苑された際何でも話してもらえよう雰囲気作りに努めている。疑問点や要望については連絡帳やミーティング等で話し合っている。	日々接する中で見せる表情や態度から利用者の思いや考えを汲み取るよう努めるとともに、家族からも面会時や家族会で意見を求め、確認するようにしている。また、年1回家族にアンケートを取り、集計した内容を法人内で話し合い、各事業所に報告している。職員が自由に記入することができる連絡帳には、ヒヤリハットや職員間の連絡事項、受診時の内容を記録して申し送り時や職員会議で確認するようにして	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は日常業務の中で職員との意見交換を行い、日ごろからコミュニケーションを図れるように心がけ、意見や要望を聞き出している。	日頃から休憩時や職員会議時に意見を聞くようにしており、年度末には個別面談を実施し、職員の意見や要望を確認している。法人内の異動がある場合は、利用者や家族との関係を良好に保つよう異動後の影響に配慮している。勤務表作成時は職員から休みの希望をとり、可能な限り対応できるよう休みを調整するなど働きやすい環境に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員の勤務状況や実績等を代表者に報告して処遇改善に努めている。勤務についても希望を受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てて研修を行っている。中堅者研修や法人内外での研修を受ける機会を定期的に設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回の福祉祭りや、管理者は他施設の責任者やケアマネとの連絡を取り合い勉強会や研修・訪問などを通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族にこれまでの生活歴・健康状態・ADLを伺い今までと変わらない生活を支援出来る様に努めている。事前に見学に来て頂きゆっくりと話をするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時、家族の不安や困りごと等を聞き取り援助できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや相談があった際に、本人の状態・ADL・生活環境などを十分に聞き取り、状況を把握した上でケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること・出来ないことを見極め常に自立に向けて、自分の家族という思いを持ち支援を行う。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者状況は常に家族に報告して、来苑された時には世間話をしながら利用者の状況を伝えている。また年間行事（家族会等）に参加をして頂いたり一緒に通院してもらったりして関係を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に対しては、本人の居室やリビング等で気を遣わず滞在できる雰囲気作りに努めている。集落の敬老会参加や小学校に出かけ関係継続に努めている。行きたい所には家族の協力をもらったり、行事に組み込んでいる。	これまでの馴染みの関係をアセスメントシートに記録し、商店やお墓参りなど、個人の希望を確認した際は、家族と協力し合い対応している。また、電話や手紙の取り次ぎを支援したり、正月やお盆には自宅に帰れるよう家族と調整し合うなど外泊支援につなげている。知人や家族が来所された際は、居室でゆっくり過ごしてもらえよう配慮し、遠方の家族には布団を準備するなど宿泊にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入居された利用者に対し輪の中に入りやすいような話題づくりを積極的に行い、利用者同士が一緒にくつろげる環境や行動できるプログラム作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの訪問時に様子を伺うぐらいで、こちらからのフォローは行っていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望・意向を尊重して、それに沿った生活が送れるように支援している。（リハビリ通院や家族の宿泊）	利用者の思いを日々、寄り添う中で感じるとともに、体調不良時の訴えも難しい場合が多いため、日々の様子観察を大切にしている。また、話せなくても相槌は打てるため、こまめに声をかけ反応を見て思いの把握に努めている。把握した内容は朝夕の申し送り時や職員会議時に話し合い、情報の共有を図り、思いの実現につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境・本人が望むことなどを把握して、入居後もできるだけ話をして今までしてきたことができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態に合わせた対応をしている。得意な分野を活かし日常生活の中で出来ること、出来そうなことを把握してサービスに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人・家族と話を行い、担当者会議等でも意見交換を行って介護計画を作成している。	利用者と家族の思いが反映された介護計画となるよう、日頃より思いの把握に努めている。また、主治医の意見書や受診時の意見も参考にしながら介護計画を立てている。日々の記録を参考に毎月モニタリングを実施し、毎月の職員会議時に介護計画を確認するようにしている。また、入退院等で状態が変化した場合は、現状に即した介護計画となるよう見直し、関係者間に説明した上で交付している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・介護記録・連絡帳等で様子を記録してプランの見直しに努めている。ミーティング等で状況の変化・体調の変化に応じて随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の入院・通院や外泊時の送迎など要望に応じて可能な限りお応えし、不満の生じないケアを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで来ていただける方々や、行政や地域の民生委員やお助け隊の方々にも協力してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に合わせて希望するかかりつけ医に家族や職員同行で受診している。家族が同行困難な場合は受診前・後報告して情報の共有を図っている。年に1回インフルエンザの予防接種に苑に来てもらっている。	入居前のかかりつけ医を把握し、入居後も本人・家族の希望する医療機関での受診に協力している。通院は家族と職員が協力し合い支援している。受診の際は医師に1か月分のバイタルを提示することで普段の状態を伝えるとともに、受診の内容は連絡帳や支援経過に記録して、申し送り時や職員会議で情報を共有している。また、受診後は速やかに家族にも受診の内容を報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の観察・健康管理等は随時相談・通院できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族と連絡を取り合い早期退院に向けて働きかけをしている。病院関係者との情報は紙面や面会・電話等で行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化や終末期の対応について、家族・本人の意向を確認し事業者が対応し得るケアについても説明を行って同意してもらっている。職員も意思確認書の内容を共有できている。	契約時に「重度化ケア対応方針」を説明し「重度化介護についての同意書」をもって本人・家族に確認している。現在のところ、事業所の力量や往診できる医師との連携が困難なことから看取りまでの対応は行わないことで説明しているが、馴染みの関係の中での生活を可能な限り尊厳をもって対応していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはホーム内での研修・訓練のほか消防等と定期的に訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練（夜間含む）を消防署の指導の下に実施している。その際、地域消防団・警察・近隣住民（お助け隊）に参加をしてもらっている。	年2回の災害訓練には消防分団のメンバーも加入している地域住民で構成する「お助け隊」の参加も得られ、避難誘導や避難先での見守り支援をお願いするなど地域との協力体制を築いている。備蓄については、約3日分の水や食料を確保しており、備品についても懐中電灯やカセットコンロ、AEDのほか担架を準備するなど万一の対応に備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が不快感を感じないように入浴（一人ずつ）・排泄・更衣時は戸やカーテンを閉めたり声の音量を下げたり、種子島弁で伝えて安心感を与えられるように努めている。	日頃から利用者の人格を尊重した接し方に気を配りながら声かけや見守りを行っている。特にトイレ誘導時は他の利用者に聞こえないように配慮している。また、人権擁護や言葉かけ等接遇に関する勉強会を実施し、年3回は人権侵害に関するチェックリストを提出するなど人格の尊重について徹底した取り組みがなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者の希望や要望を聞き取りやすい雰囲気作りに取り組んでいる。ミーティング等でチーム支援が出来るように話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やペースに合わせて出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣替えや洋服等も気を遣い足りないものは家族に相談し、散髪も随時苑で切ったり希望があれば店に行くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にエプロンたたみや配下膳を手伝っていただいている。季節の食材を使ったり行事食や誕生会で楽しんでいただいている。	季節を考慮した献立を栄養管理委員会で話し合っ立っており、旬の食材や頂き物等も利用しながらバランスのよい食事を提供している。また、おやつや誕生会のケーキ、おせち料理や雛祭りメニュー、バレンタインデーに合わせたチョコ作りなど、行事食を利用者と職員と一緒に手作りすることもあり、食の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分不足にならないように日誌に記録して気を付け栄養の不足している方にはエンシュア等の栄養補助食品で補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケア（義歯洗浄・口腔ティッシュ）を行い義歯は夕食後1晩ポリドント等で消毒している。必要な利用者には歯科医受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下肢筋力低下を防ぐため体操・歩行訓練を行っている排泄表を作りパターンを把握して自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄のタイミングを把握することができているため、おおよそ時間でトイレに誘導することができている。ポータブルトイレを利用する利用者も日中はトイレで排泄するよう支援しており、夜間のトイレ誘導は睡眠の妨げになることもあるため、パットのみ交換するなど状況に応じて対応している	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分・運動による自然排泄に取り組んでいる。排泄表を付けて必要な方には服薬で排便調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の体調等を見ながら隔日に入浴してもらっている。一人一人入浴してもらい入浴剤を変えたり必要な方は2人介助で行っている。	入浴日は隔日としているが、希望があればいつでも入浴でき、シャワー浴や足浴などにも対応している。入浴を拒む利用者はいないが、高齢化や重度化により、職員が二人がかりで支援することが多くなってきている。入浴後は麦茶等による水分補給や軟膏塗布等による皮膚ケアなどに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が自分のペースで休息や睡眠が出来るように支援している。布団やベッド、ホールにソファを置き休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や目的は随時連絡帳やミーティング時に全員理解できるようにしており変化に対応できるようにしている。医師との連携にも努めて服薬変更等もできている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月のレクリエーションで個人の趣味や得意なことや出来ることを組み入れたり花壇の草取りや洗濯物畳など生活の中で得意分野を活かせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望があれば散歩や月1回の苑外活動で季節を味わえるような場所に出向いて季節感を感じてもらっている。	日常的に買い物や散歩に出かけたり、庭の芝生で日光浴や体操を行うなど、外気浴を楽しんでいる。月に1回、初詣や花見、ロケット基地見学、福祉祭りや地域の運動会などの外出行事を組み、利用者全員が外出できるよう職員数を増やして実践している。また、個別に希望するお墓参り等に出かけるなど、家族と職員が協力し合いながら外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な方が多いため、事務所で管理して本人の希望がある時は使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族とのつながりを大切にして頂くように本人の居室に電話・携帯電話があり好きな時に連絡したり、手紙や子包みが届いたときは事務所からの電話で話してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには多くのソファやベンチを配置して気の合う利用者同士で思い思いの場所で過ごされている。夏はよしずや冬は加湿器等準備してホールの模様替えて季節感を出している。	高台にある事業所からの眺望は素晴らしく、海や空が一際大きく見え、庭での外気浴を楽しんでいる。テラスからはロケットの打ち上げが見えるため、利用者・職員でロケットの発射を楽しむことが出来る。リビングの天井は高く、天窓からの採光は十分であり、加湿器やこまめな換気で空調に配慮している。行事の写真や季節の作品を展示することで四季が感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が居室の行き来や食堂やホールのソファで思い思いの時間を過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族の方へ昔から使い慣れている物や、思い入れのある物などを持ってきてもらうようお願いしている。（家具・位牌等）その人らしく安心して過ごせるように配慮している。	テレビや電話機、位牌や写真などの馴染みの物を自宅から持ち込み、本人と家族、職員とともに飾り付けを行うことで個室感を出すよう工夫している。また、居室の掃除は毎朝職員が丁寧にを行い、室内の様子を確認しながら、整理整頓、感染症予防にも配慮し、清潔で居心地の良い環境を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には本人家族の同意を得て、名前・顔写真を貼り自分の居室とわかるようにしてある。トイレや浴室には案内板を表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない